

令和6年2月1日

松阪市議会議長
坂口秀夫 様

海住恒幸

研修参加報告書

研修会 第3回議員力研究会公開セミナー
「土山希美枝氏を講師に迎えての質問力研修」
主催 議員力研究会
期日 令和6年1月20日(土) 午前9時45分～午後5時
会場 ウイルあいち会議室
参加者 全国の市議会・町議会議員40人

研究会は、岐阜県多治見市の幹部職員として、市長マニフェスト・サイクルの総合計画の策定にかかわるなどユニークな市政を実務者サイドから支えた青山崇氏(自治体学会副理事長)を常任の講師に迎え、年度に4～5回、名古屋駅から徒歩で歩いて行ける会場で開催している。会員は10人。今回は、一般公募による公開セミナーとしたところ、遠方は埼玉県や香川県からも参加があった。当選回数1回目の議員が多かった。

1、基調講演(午前10時～午前11時30分)

講師 土山希美枝氏(法政大学法学部教授)

議会における一般質問について、「たかが一般質問、されど一般質問」と位置付け、意義を伝える内容。「たかが」という意味は法律にもない存在であること。「ではなぜ」ということで、議員一人ひとりの公約実現のためには一般質問しかないとした。一般質問の中出陥りやすい類型として、「窓口で聞けば済む窓口質問」、「論点を絞るべきだった勿体無い質問」「個別的すぎる質問」の3つを挙げた。

2、グループ討議1(午前11時30分～午後1時)

1テーブルにつき、概ね3人ずつ、計13のグループに配置し、一般質問の悩みを語り合う。各テーブルには議員力研究会会員が1名(足りないテーブルには協力者)ずつ入っており、一般参加者2人の語らせ役として対応した。会員以外の参加者は、一定の時間になると他のテーブルに移動する形をとった。最後の30分、講師のコメント。

3、グループ討議2(午後2時)

参加者は事前に、うまくいかなかった一般質問についての振り返りシートと議事録を提出。グループは3人1組で、会員は各テーブルに1人ずつ入る。このメンバー構成は事前に確定しておき、会員は同じテーブルに入る参加者のシートや議事録はあらかじめ目を通した上、グループ討議にのぞむ。シート

には、質問のテーマやそのテーマを選んだきっかけ、何を聞いたかったか、どのような準備をしたかなどを書き出してあり、参加者全員で共有した。一人ひとりの質問についての議論は30分程度とした。

4、発表、講師コメント(午後3時40分)

各テーブルで出された意見は模造紙に示し、会場内に掲示。講師が、それぞれを見て回りながらありがちな失敗、課題を示し、全員と共有した。

5、全体の振り返り(午後4時30分)

参加者から多く示された悩み事は、質問時間が短いということ。答弁時間を含む往復型で質問時間を設定する議会と、質問時間だけでカウントする片道型とがあり、講師は片道型にしていくべきとした。一般質問の通告はどこまでするのかという問いには、「噛み合わない答弁を避けるためのもの」ということだった。

6. 終了(午後5時)

振り返って(所感)

「課題は必ず少数者からの問題提起である」。講師が述べた言葉である。このことを忘れないでおこうと思う。

以上